

中学校第2回入試を終えて

1月15日(火)、中学校の第2回入学試験を無事終了することができました。特待入試、第1回入試に続き、第2回入試も昨年度同様、多くの受験生をお迎えすることができました。ありがとうございました。

大変寒い中、受験生であるご息のため大勢の保護者の皆様がお見えになりました。毎年のごことは言いながらも、こうした姿に保護者の皆様のご息への愛情と教育への熱意を目の当たりにし、教職員一同身の引き締まるものを感じました。また、早朝より受験生の応援のために駆けつけて下さった塾の先生方には、本当に頭の下がる思いをいたしました。大変多くの受験生をお迎えできたことは、これからの城北埼玉へのご期待と受け止め、そのご期待に応えることができる学校へ更なる成長を遂げたいと感じております。

さて、第2回入学試験では厳正な合否判定の結果215名の実受験者のうち、146名の合格者を決定し、このうち27名を特待生合格(選抜クラス)、選抜合格24名(選抜クラス)とさせて頂きました。入試結果に関する詳細は本校ホームページ上で掲載させて頂いております。加えて各教科主任からの講評も記載しております。受験生の皆様のお役に立てて頂ければ幸いです。

今回十分な力を発揮できなかった受験生の皆さん、次のチャンスで力を発揮して下さい。入試に限らず、最も大切なことは「心と体」です。強い信念を持ち、体調を整えて挑めばリベンジは目前です!そんな強い受験生を心待ちにしております。

能力は無限、時間は有限
学力は試験当日まで伸びる!
粘れ! 輝け! 受験生!!

城北埼玉中学・高等学校

校長

森泉秀雄

国語 講評

㊦ 漢字の読み書き

2の「伝染」が出来ていませんでした(「伝線」「伝宣」「伝接」「宣伝」等)。

㊧ 「中学生の教科書—理科—」

今回の説明的文章は正答率もあまり高くはなく、かなり読み解くのに苦勞した様子が見てとれました。科学の結論が絶対的に正しいとは言い切れないということを説明する文章でした。キーワードとして傍線2の「仮の結論」という言葉の意味を読み解く必要がありました。また、「経験的事実」の裏付けという言葉にも非常に重要なヒントが隠されています。これらのキーワードをアゲハチョウや宇宙人の具体例に結び付けながらもう一度読んでみましょう。

㊨ 「大きくなる日」

テニス部でのコート整備をする係をグーパーじゃんけんで決める際に起こったことを軸にした文章でした。「誰か一人をハメることはしない」というあらかじめ決められていたルールを破って未永をハメてしまったことによって起こる、ぼくの葛藤を描いています。

採点していて問9以降の正答率が下がった様感じられました。恐らく大問㊨に時間を使いすぎて、余裕がなくなってしまった受験生も多かったのではないかと思います。問題を解き始める前に全体を見渡して、時間がかかりそうだったり、むずかしそうだったりする問題は後回しにするなどして、時間内に一問でも多く解けるようにしていきましょう。問15の問題は、「理由を明らかにして」という条件のある問題でした。理由が明確であれば、自由に意思を表明できる問題でしたが、時間がなくて未記入のまま終わってしまった答案があったことは残念でした。

- 試験はまだ続きます。どうか体調を崩さぬよう、そして皆さんの力が存分に発揮されることを心からお祈りしています。

国語科 高橋浩一郎・木下幸一

算数 講評

- 1 今回も大問 1 は小問集合でした。(1)の計算は落ち着いて計算し、確実に得点したいところです。(5) は図形が思い浮かばなかったのか、 $\triangle ABC$ の面積を求めたと思われるものが少なくなく、思いのほか出来は良くなかったようです。大問全体としての平均点は大変良好でした。
- 2 図形の裏側の様子が推測できずに、正しく数えられている答案が思った以上に少なかったようです。図形の対称性を考え、工夫して数えられる練習をしましょう。
- 3 2 辺の長さの和が他の 1 辺の長さより長くないと三角形を作ることができないことに注意が必要です。例えば、 $10\text{cm} + 15\text{cm} = 25\text{cm}$ なので、 $(10\text{cm}, 15\text{cm}, 25\text{cm})$ や $(10\text{cm}, 15\text{cm}, 30\text{cm})$ の組は三角形を作れません。
- 4 辺の比と面積の比の関係を考える問題でした。当初の想定より出来が良かったようです。
- 5 反射の問題です。(1) と (2) はどちらを先に解いても構いません。(3) については、定石通り反射する辺を対称の軸にして長方形をかきつられることを考えます。または、辺 AB (CD) 上の反射する点は 4cm ずつずれていくことを考えて反射する回数を数えても良いでしょう。

今年度は第 3 回入試もこれまでと同様に大問 1 は小問集合で、それを含めて大問 5 題の出題です。第 3 回入試はこれまで以上に計算等素直な問題が多く出題されます。受験する方は基本問題を確実に解けるよう再度基本問題の演習を行い、受験するようになしてください。

数学科主任 池上雅史

社会 講評

〈 地理分野 〉

昨年、日本において開催されたラグビーワールドカップの試合開催地となった都道府県に関する出題でした。問1の「政令指定都市ではないもの3つ」を選択する出題(順不同)、問2の「日本海に面している都道府県をすべて」選択する出題(順不同・完全解答)、問3の「新幹線の通っていない都道府県をすべて」選択する出題のように、正解が1つではない問題の正答率が低かったように感じます。各地域についての個別の事柄についての学習はできているようです(例えば都道府県名と都道府県庁所在地の組み合わせ)が、その上で政令指定都市や新幹線といった新たな学習事項を学んだ時、それぞれを区別した上で関連づけて整理する作業・思考を意識することが不足していたのではないのでしょうか。「形」から都道府県名を判断する問題は頻出事項ですし、グラフの読み取りも本校入試ではよく出題されるものです。用語の暗記だけでなく、用語と地図・資料を関連づけた学習を意識することで理解は深まりますし、問題を解く力も格段に向上することでしょう。

〈 歴史分野 〉

「改元」と「即位」がテーマの出題でした。問2の「象徴」は、新聞記事・ニュースなどに触れている受験生が多かったようで正答率が高く出ました。問3の「一世一元」も正答率が高い方でしたが「一世一代」の誤答も多く見受けられました。本校入試では頻出の「学問の神、菅原道真」ですが、今回は「菅原」姓の記述でした。「管」の誤記、「藤原」との混同が多かったように感じます。問7は問題文の情報量を多くしましたが、ヒントの単文から該当する漢字をすぐに想起できた受験生が多く、正答率は高かったと思います。歴史上の人物として「後醍醐天皇」は有名ですが、問10では「醍醐」だけの記述を出題しました。知ってはいるものの、正確に記述できていない受験生諸君が意外に多かったようです。作問する上での話題はいろいろと工夫しておりますが、出題している事柄は過去問題を練習していると、繰り返し出題されているものが多いのです。次回に向けて過去問は勿論、1・2回の出題例も参考に学習してください。

〈 公民分野 〉

問3(1)のグラフのタイトルを選択する問題ですが、縦軸の単位は削除してあるものの、Bのグラフはよく見ればG7諸国平均と韓国についての折れ線グラフがあるのに気づくはずですが。問5の昨年から大きな話題となっていた「消費税」に関しては、逆進性や軽減税率について、また問6の英国については、「EU」からの離脱について勉強しておくべきです。問8「プライバシー」の権利は基本用語のはずです。少しひねった問われ方をされても、内容を理解していれば正答できたはずですが。基本用語は意味や内容も含めて理解しておきましょう。また、日頃からニュースを見聞きする習慣もつけましょう。

社会科主任 高橋寿拓

理科 講評

- 1 音の高さについて、実験結果の表を見て考える問題でした。知識として知っていれば解ける問題もありましたが、いくつかの情報を見比べて、そこから手がかりとなるような法則性や事実を見出すことが重要でした。2つの表も関連しており、これらの情報を上手に処理することが必要です。ただの情報の集まりからヒントを見つけるためには、1つの考えにとらわれず、柔軟に多くの視点で見ようと心がけることが大切。たくさんの情報に触れるとき、どのようなヒントにつながるのか考えてみて欲しいと思います。
- 2 物質の燃焼に関する問題でした。物が燃えると、酸素と結びついて性質の違う別の物質に変化します。この問題の場合、鉄が燃えて酸化鉄になります。それぞれの物質の性質を理解していれば、あまり悩まずに解くことができる問題です。従って問1～問3は比較的よくできていました。
問4、問5は酸に金属を加えたときの反応です。どの組み合わせで何の気体が発生するのかという内容はよく出題されるので、覚えておきましょう。
問6では、問題文より、スチールウールの方が鉄板よりも酸素が結びつきやすいことがわかります。同じ物質でも、燃えたときに酸素が結びつく量に違いが出るのは、2つの物質の形の違いであることに着目できるかがポイントになります。
- 3 は生態系と環境問題に関する問題でした。どちらの分野も、日頃のニュースで取り上げられるものです。これらの分野を学ぶ際には、教科書に書いてある知識を覚えるだけでなく、日常生活と関連付けて学ぶ必要があります。普段からニュースに目を向けている受験生は問題なく高得点を取ることができたと思います。グラフに関する問題では、各グラフの大きさや周期性に注目することがポイントです。初見であったとしても、焦らずに読み取ることを心がけてください。
- 4 宇宙に関する知識を問うた問題でした。宇宙に興味があったり、ニュースを日頃からよく見ていれば、自信を持って解答できたと思います。国際宇宙ステーションの速さや地球の信号がはやぶさ2に届くまでの時間を求めるような計算問題もありましたが、問題文をきちんと読み取り、図にしてみるとイメージがしやすくなります。計算問題が数字のパズルにならないように、具体的に思い描いてみるのがポイントです。また、自分には関係のないと思っていることでも、ある出来事は何かしらに影響を与えています。どんなことでも自分事として考えてみると、何かしらのヒントが得られるかもしれません。ニュースになっていることをもう一度考えてみてほしいかもしれませんね。

理科主任 中野雄一